

# 巻末資料

p. 35～37の内容は「エコギャラリー～おおさかの環境ホームページ～」に掲載しています。

## 1 平成21年度における環境の状況及び講じた施策

## 2 環境関連主要事業費（決算額）

## 3 環境保全目標

## 4 平成22年度において豊かな環境の保全及び創造に関して講じようとする施策

## 5 環境関係データ（目次）

### 1 府域の概要データ

- 1-1 大阪府の人口及び世帯数の推移
- 1-2 土地利用区分別面積の推移
- 1-3 製造品出荷額等の推移
- 1-4 農業産出額の推移
- 1-5 林業産出額の推移
- 1-6 漁業生産額の推移

### 2 基本的施策に関するデータ

- 2-1 大阪府環境行政体制
- 2-2 環境関連行事の概要
- 2-3 試験研究機関における調査研究
- 2-4 市町村の公害対策事業概要
- 2-5 市町村の環境行政体制
- 2-6 市町村の環境関連条例制定状況
- 2-7 市町村の環境関連計画策定状況
- 2-8 公害防止に関する税制上の措置
- 2-9 環境行政年表

### 3 廃棄物関係データ

#### ○概要

#### ○一般廃棄物データ

- 3-1 一般廃棄物の処理状況
- 3-2 市町村におけるごみの分別収集実施状況
- 3-3 ごみ焼却施設の処理能力
- 3-4 粗大ごみ処理施設の処理能力
- 3-5 し尿処理量の推移
- 3-6 し尿処理施設の処理能力
- 3-7 市町村におけるごみ減量化・リサイクルの取組状況

#### ○産業廃棄物データ

- 3-8 産業廃棄物の処理状況
- 3-9 排出事業者に対する指導状況
- 3-10 産業廃棄物処理業者の状況（大阪府知事許可分）
- 3-11 産業廃棄物処理業者等に対する指導状況
- 3-12 産業廃棄物処理施設設置許可状況
- 3-13 廃棄物再生事業者の登録状況
- 3-14 下水汚泥の有効利用率
- 3-15 最終処分場の埋立処分量
- 3-16 フェニックス事業の概要

#### ○放置自動車データ

- 3-17 大阪府域の放置自動車処理台数の推移

### 4 地球環境関係データ

#### ○概要

#### ○地球温暖化関係データ

- 4-1 大阪府域における温室効果ガス排出量の推移
- 4-2 大阪府域におけるエネルギー消費量の推移
- 4-3 府内の新エネルギー等の導入実績

#### ○酸性雨関係データ

- 4-4 大阪府酸性雨共同調査測定結果

### 5 自動車関係データ

#### ○概要

#### ○自動車排出ガス関係データ

- 5-1 車種別自動車保有台数
- 5-2 府内（対策地域）における自動車走行量の推移
- 5-3 交通渋滞時間（一日平均）
- 5-4 自動車燃料の販売実績の推移
- 5-5 自動車排出ガス規制強化の推移
- 5-6 自動車NO<sub>x</sub>・PM法に基づく車種規制
- 5-7 自動車排出ガス等街頭検査結果
- 5-8 整備不良ディーゼル車府民通報制度の実施状況
- 5-9 低公害車の普及状況（大阪府域）
- 5-10 燃料供給施設整備状況（大阪府域）

### 6 大気環境関係データ

#### ○概要

#### ○光化学オキシダントデータ

- 6-1 昼間の光化学オキシダント濃度が0.06ppmを超えた日数の地域別状況と推移
- 6-2 光化学スモッグ予報・注意報の発令回数及び被害の届出人数の推移
- 6-3 非メタン炭化水素濃度の推移

#### ○硫黄酸化物データ

- 6-4 二酸化硫黄濃度の推移

#### ○一酸化炭素データ

- 6-5 一酸化炭素濃度の推移

#### ○有害大気汚染物質データ

- 6-6 ベンゼン等有害大気汚染物質の環境保全目標達成状況

#### ○アスベストデータ

- 6-7 アスベスト（石綿）環境調査結果（地域区分別）

#### ○排出抑制対策関係データ

- 6-8 法律及び府条例に基づくばい煙発生施設等の届出の状況
- 6-9 立入検査・試料採取状況

### 7 水環境関係データ

#### ○概要

#### ○河川関係データ

- 7-1 河川の健康項目の環境保全目標値超過状況（検体数）
- 7-2 河川のBODの環境保全目標達成状況（類型別）
- 7-3 BOD汚濁負荷量の推移
- 7-4 河川のBODの環境保全目標達成状況（水域別）

#### ○海域関係データ

- 7-5 大阪湾のCOD（75%水質値（表層））の環境保全目標達成状況
- 7-6 大阪湾の全窒素・全りんに係る環境保全目標達成状況

- 7-7 大阪湾の全窒素（大阪府測定点・表層年平均値）の推移
- 7-8 大阪湾の全りん（大阪府測定点・表層年平均値）の推移
- 7-9 大阪湾の赤潮発生頻度の推移

#### ○生活排水関係データ

- 7-10 処理形態別人口と割合
- 7-11 汚水衛生処理率（市町村別）
- 7-12 大阪府域の生活排水処理計画図
- 7-13 下水道普及率の推移
- 7-14 市町村別下水道普及率
- 7-15 下水処理水の有効利用率
- 7-16 大阪府下水道計画図

#### ○産業排水対策関係データ

- 7-17 法律及び府条例に基づく特定（届出）施設設置等の許可及び届出状況
- 7-18 立入検査状況

### 8 地盤環境関係データ

#### ○概要

#### ○地盤沈下関係データ

- 8-1 地盤沈下の推移
- 8-2 地下水位の推移
- 8-3 地下水採取量の推移
- 8-4 工業用水法に基づく許可井戸（揚水設備）の状況
- 8-5 地盤沈下対策としての工業用水の給水状況

#### ○地下水汚染関係データ

- 8-6 地下水質概況調査環境保全目標未達成地点
- 8-7 地下水質概況調査測定地点図
- 8-8 地下水質汚染井戸周辺地区調査結果
- 8-9 地下水質継続監視調査測定地区図

#### ○土壌汚染関係データ

- 8-10 土壌汚染対策法の施行状況
- 8-11 大阪府生活環境の保全等に関する条例（土壌汚染対策）の施行状況

### 9 騒音・振動関係データ

#### ○概要

#### ○現況データ

- 9-1 環境騒音（道路に面する地域）の環境保全目標達成状況
- 9-2 環境騒音（一般地域）の環境保全目標達成状況
- 9-3 大阪国際空港周辺における航空機騒音の常時測定結果の推移
- 9-4 大阪国際空港周辺における航空機騒音の随時測定結果
- 9-5 関西国際空港周辺における航空機騒音の随時測定結果
- 9-6 新幹線鉄道騒音の環境保全目標達成状況
- 9-7 在来線鉄軌道の騒音振動実態調査の結果

#### ○騒音関係対策データ

- 9-8 道路における遮音壁、低騒音舗装の設置状況
- 9-9 主要交通規制の実施状況
- 9-10 在来線鉄軌道騒音・振動対策の実施状況
- 9-11 新幹線鉄道騒音・振動対策の実施状況

### 10 有害化学物質（ダイオキシン類）関係データ

#### ○概要

#### ○現況データ

- 10-1 ダイオキシン類常時監視結果（平均値）及び環境保全目標達成状況の推移

- 10-2 ダイオキシン類常時監視結果（大気、河川、海域、地下水、土壌）

### 11 環境保健対策等関係データ

#### ○概要

#### ○現況データ

- 11-1 公害健康被害の補償等に関する法律による被認定者数の推移
- 11-2 食品中のPCB汚染調査結果
- 11-3 公害の地域別苦情件数
- 11-4 公害の種類別苦情件数の推移
- 11-5 保健所における環境汚染に係る相談（苦情）件数
- 11-6 府警察機関における公害関係苦情処理状況

### 12 自然・都市環境関係データ

#### ○概要

#### ○生物多様性関係データ

- 12-1 地域別生息鳥獣
- 12-2 大阪における絶滅のおそれのある野生生物一覧

#### ○自然環境関係データ

- 12-3 府内の自然資源の現状
- 12-4 地域別ため池面積の推移とため池の数
- 12-5 緑被現況
- 12-6 都市公園1人当たり面積の推移
- 12-7 府営公園の概要
- 12-8 風致地区
- 12-9 港湾緑地整備の進捗率

#### ○歴史的文化的環境関係データ

- 12-10 大阪府内の指定等文化財件数

### 13 環境保全活動関係データ

#### ○概要

#### ○パートナーシップによる環境保全活動データ

- 13-1 豊かな環境づくり大阪府民会議の開催状況
- 13-2 大阪府リサイクル社会推進会議の事業概要
- 13-3 大阪自動車環境対策推進会議の活動状況
- 13-4 大阪府環境保全基金活用事業一覧
- 13-5 大阪府みどりの基金事業の実績

#### ○事業活動における環境保全活動データ

- 13-6 平成21年度に手続きを実施した環境影響評価事業

### 14 大阪府の事務事業における環境負荷データ

#### ○概要

#### ○事業活動における環境保全活動データ

- 14-1 大阪府庁の事務事業に係る温室効果ガス排出量
- 14-2 環境マネジメントシステムの環境目標達成状況

### (詳細データ編)

### 1 地球環境関係データ

#### ○地球温暖化関係データ

- 1-1 フロン等モニタリング調査結果

#### ○酸性雨関係データ

- 1-2 乾性沈着測定値の範囲、平均値
- 1-3 乾性沈着（粒子状及びガス状の化学物質）の経年変化
- 1-4 大阪府酸性雨共同調査測定結果（湿性沈着）

### 2 自動車関係データ

- 2-1 自動車NO<sub>x</sub>・PM法の概要
- 2-2 大阪府自動車NO<sub>x</sub>・PM総量削減計画の概要
- 2-3 LEV-7の指定状況

### 3 廃棄物関係データ

- 3-1 多量排出事業者及び建設業者に対する指導要綱
- 3-2 大阪府リサイクル社会推進会議の概要

## 4 大気関係データ

### ○窒素酸化物データ

- 4-1 工場・事業場等からの地域別窒素酸化物排出量の推移
- 4-2 二酸化窒素濃度の地域別状況と推移

### ○浮遊粒子状物質データ

- 4-3 浮遊粒子状物質の環境保全目標達成状況の推移(短期的評価)
- 4-4 浮遊粒子状物質の重量濃度、金属類、イオン成分及び炭素成分濃度

### ○光化学オキシダントデータ

- 4-5 昼間の光化学オキシダント濃度0.06ppmを超えた日数の推移
- 4-6 光化学スモッグ予報・注意報発令状況

### ○硫黄酸化物データ

- 4-7 工場・事業場等からの地域別二酸化硫黄排出量の推移
- 4-8 二酸化硫黄の環境保全目標達成状況の推移

### ○一酸化窒素データ

- 4-9 一酸化窒素濃度の推移

### ○大気汚染常時測定データ

- 4-10 大気汚染常時測定結果一覧

### ○モニタリング地点データ

- 4-11 大気汚染常時測定局設置状況
- 4-12 大気汚染常時測定局の設置主体別・項目別測定局数
- 4-13 大気汚染測定車等の整備状況

### ○有害大気汚染物質データ

- 4-14 有害大気汚染物質環境モニタリング調査地点
- 4-15 有害大気汚染物質環境モニタリング調査結果

### ○排出抑制対策関係データ

- 4-16 関西電力発電所の公害等防止協定遵守状況
- 4-17 大気汚染防止法の対象施設の設置状況
- 4-18 ダイオキシシン類対策特別措置法に基づく大気基準適用施設の設置状況
- 4-19 府条例に基づく届出施設等の設置工場・事業場数
- 4-20 燃料・原料使用状況の概要
- 4-21 燃料種別使用量の推移

## 5 水質関係データ

### ○水使用関係データ

- 5-1 水使用の推移

### ○河川関係データ

- 5-2 河川の健康項目の環境保全目標未達成地点
- 5-3 河川水質生活環境項目調査結果
- 5-4 環境保全目標に定める河川の特殊項目についての調査結果
- 5-5 河川底質調査結果
- 5-6 河川測定地点図(環境基準点)

### ○海域関係データ

- 5-7 大阪湾のCODの調査結果
- 5-8 大阪湾水質調査結果
- 5-9 環境保全目標に定める大阪湾の特殊項目についての調査結果
- 5-10 大阪湾底質調査結果
- 5-11 大阪湾の測定地点図

### ○農業関係データ

- 5-12 ゴルフ場排水口等における農業の水質調査結果(大阪府及び市町村実施分)

### ○産業排水対策関係データ

- 5-13 法律及び府条例の対象工場・事業場(水域別の総括)
- 5-14 ダイオキシシン類対策特別措置法に基づく水質基

準対象施設の設置状況

## 6 地盤環境関係データ

- 6-1 地下水質概況調査結果(年平均値)
- 6-2 地下水質継続監視調査結果(年平均値)

## 7 騒音・振動関係データ

- 7-1 環境騒音(一般地域)の環境保全目標達成状況の推移
- 7-2 環境騒音(道路に面する地域)の環境保全目標達成状況の推移(面的評価)
- 7-3 自動車騒音に係る要請限度(道路に面する地域)の超過状況の推移
- 7-4 新幹線鉄道騒音の環境保全目標達成状況の推移
- 7-5 府条例に基づく届出施設の種類の届出状況
- 7-6 府条例に基づく特定建設作業の実施届出状況
- 7-7 工場・事業場の騒音・振動による苦情件数の推移
- 7-8 工場・事業場の騒音・振動による用途地域別苦情件数の割合
- 7-9 建設作業の騒音・振動による苦情件数の推移
- 7-10 鉄軌道の騒音・振動による苦情件数の推移
- 7-11 拡声機・カラオケ・生活騒音による苦情件数の推移
- 7-12 生活騒音による苦情内訳・苦情件数の割合
- 7-13 低周波音による苦情件数の推移
- 7-14 自動車騒音対策の体系
- 7-15 大阪国際空港周辺における航空機公害対策の体系図
- 7-16 大阪国際空港周辺における騒防法に基づく騒音対策区域
- 7-17 航空機宣伝放送に係る自主規制の内容
- 7-18 府内における一般環境中の低周波音の音圧レベル

## 8 有害化学物質関係データ

- 8-1 ダイオキシシン類追跡調査結果
- 8-2 ダイオキシシン類常時監視調査以外の測定結果(市町村実施)

## 9 環境保全関係データ

- 9-1 発生源の業種別苦情件数
- 9-2 公害防止管理者等の届出状況
- 9-3 大阪府環境影響評価条例の手続きフロー

## 10 自然・都市環境関係データ

### ○森林農地関係データ

- 10-1 森林面積の推移
- 10-2 耕地面積の推移

### ○自然環境関係データ

- 10-3 大阪府自然環境保全地域・緑地環境保全地域の指定状況
- 10-4 保安林の現況
- 10-5 国定公園・近郊緑地保全区域の指定状況
- 10-6 特別緑地保全地区の概要
- 10-7 自然公園の概要
- 10-8 府民の森の施設及び利用促進事業の概要

## 11 情報発信関係データ

- 11-1 おおさかの環境ホームページ「エコギャラリー」へのアクセス件数

## 6 環境用語解説

(あ)

### アスベスト

アスベスト(石綿)は、天然の繊維で、熱、摩擦、酸やアルカリにも強く、丈夫で変化しにくいという特性をもち、経済性にも優れ、建築材料、産業機械、化学設備などに幅広く利用されている。

主な用途としては、紡織品、摩擦材、石綿板紙、石綿スレート、電気絶縁材、石綿セメント製品、断熱・防音材(吹付けアスベスト等)等に使用されてきたが、アスベストは、一旦環境中に飛散するとほとんど分解・変質しないため蓄積性が高く、多量の吸入により、肺がん、悪性中皮腫等の病気の原因になるとされ、現在では、原則として製造等が禁止されている。

(え)

### エコカー

低公害車をはじめとして、排出ガス性能に加え、地球温暖化防止の観点から二酸化炭素排出量の少ない自動車をいう。

### エコドライブ

おだやかなアクセル操作をしたり、自動車に不要な荷物を積まないなど、環境にやさしい運転のこと。自動車の燃料消費量を削減することで、大気汚染の原因となるNO<sub>x</sub>(窒素酸化物)やPM(粒子状物質)、地球温暖化の原因となるCO<sub>2</sub>(二酸化炭素)の排出が抑制できる。

(お)

### 屋上緑化

建築物の屋上に植栽基盤を作り、植物を植えて緑化すること。スペースの限られた都市部における緑化手法であるとともに、ヒートアイランド現象の緩和策の一つとしても注目されている。また、癒しの空間、コミュニケーションの場としても活用されている。建築物の耐荷重に配慮した軽量土壌などの資材や植栽、防水、防根、排水といった様々な工法や技術が開発されている。

### 温室効果ガス

大気を構成する気体であって、赤外線を吸収し再放出する気体。この濃度の増加が地球温暖化の主原因とされており、京都議定書では、二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、六ふっ化硫黄の6物質が温室効果ガスとして削減対象となっている。

(か)

### 化学的酸素要求量(COD)

海域等の水の汚れの度合を示す指標で、水中の有機物などの汚濁源となる物質を、過マンガン酸カリウム等の酸化剤で酸化するときに消費される酸素量で表したものの。単位は一般的にmg/Lを用い、この数値が大きいほど水中の汚濁物質の量が多いことを示す。

### 環境影響評価

事業の実施に伴う環境への影響について、あらかじめ調査、予測及び評価を行い、その結果に基づき、その事業に係る環境の保全について適正な配慮を行うこと。

### 環境マネジメントシステム

環境に与える負荷を継続的に低減するため、事業者が自主的に環境方針や環境目標等を設定し、その達成に向けて取り組むことを「環境マネジメント」といい、それを推進するための体制や手順等を「環境マネジメントシステム」という。

### 環境リスク

環境の汚染や変化が、人の健康や生態系に影響を及ぼす可能性のこと。

なお、化学物質に係る環境リスクの評価は、その危険・有害性の程度と暴露量(吸ったり食べたり触れたりして体の中に入り込む量)とを併せて行われる。

リスク=危険・有害性×暴露量

(き)

### 揮発性有機化合物(VOC)

揮発性があり大気中で気体状となる有機化合物の総称。塗料、印刷インキ、接着剤、洗浄剤などに使用され、トルエン、キシレン、酢酸エチルなど多種多様な物質が含まれる。浮遊粒子状物質や光化学オキシダントの原因物質となる。

(く)

### グリーン電力証書

太陽光などの再生可能エネルギーによって発電された電気の「環境付加価値」を証書化したもの

### グリーン配送

物品の輸配送に環境への負荷の少ない車(低公害車、ガソリン自動車、LPG(液化石油ガス)自動車、大阪府が指定したディーゼル車など)を使用すること。

### クールスポット

緑地・水辺等の設置により、日光の遮蔽や葉部による蒸散冷却作用等で地表面等の温度が周辺部より低くなり、体感温度も低くなる空間。

(こ)

### コージェネレーション

一つの燃料源から二つの異なるエネルギー（電気エネルギーと熱エネルギー）を同時に供給すること。電力のみを発生させている発電設備では、原動機から出る熱を捨てていたが、コージェネレーションシステムでは、電力供給と同時に、捨てられていた排熱を効率よく回収し、給湯、蒸気、空調等のエネルギーとして有効に利用している。

(し)

### ジクロロメタン (CH<sub>2</sub>Cl<sub>2</sub>)

揮発性有機化合物で芳香臭のある無色透明の非引火性・不燃性の水より重たい液体。トリクロロエチレンやテトラクロロエチレンの代替物質として溶剤に用いられるほか、ウレタン発泡助剤や冷媒等に用いられる。皮膚に触れた場合、刺激を感じるとともに薬傷を負うことがある。また、蒸気に麻酔作用があり、短時間に多量の蒸気を吸引すると急性中毒をおこす。

### 自然海浜保全地区

貴重な自然海浜を保全し、その適正な利用の促進を図るため、瀬戸内海環境保全特別措置法に基づき指定される地区。地区内においては、工作物の新築等の行為を届出制とするなどにより保全等を図っている。府では、岬町の小島地区及び長松地区の2地区を指定している。

### 新エネルギー

「新エネルギー利用等の促進に関する特別措置法」において、「新エネルギー利用等」として規定されており、①太陽光発電、②太陽熱利用、③風力発電、④廃棄物燃料製造、⑤廃棄物発電、⑥廃棄物熱利用、⑦バイオマス燃料製造、⑧バイオマス発電、⑨バイオマス熱利用、⑩温度差エネルギー、⑪雪氷熱利用、⑫クリーンエネルギー自動車、⑬天然ガスコージェネレーション、⑭燃料電池をいう。

(せ)

### 生活排水処理率

生活排水を適正に処理している人口（水洗化・生活雑排水処理人口）が全人口に占める割合。

$$\text{生活排水処理率} = \frac{\text{水洗化・生活雑排水処理人口}}{\text{住民基本台帳人口} + \text{外国人登録人口}} \times 100$$

### 生物化学的酸素要求量 (BOD)

河川等の水の汚れの度合を示す指標で、水中の有機汚濁物質が微生物によって分解されるときに必要な酸素量から求める。単位は一般的に mg/L で表し、この数値が大きいほど水中の有機汚濁物質の量が多いことを示す。

(た)

### ダイオキシン類

ポリ塩化ジベンゾパラジオキシン (PCDD)、ポリ塩化ジベンゾフラン (PCDF) 及びコプラナーポリ塩化ビフェニル (コプラナーPCB) の総称であり、PCDDは75種類、PCDFは135種類、コプラナーPCBは十数種類の異性体が存在する。これらは、物の燃焼の過程や農薬の製造等において非意図的に生成し、毒性は、急性毒性、発ガン性、生殖毒性、免疫毒性など多岐にわたる。

ダイオキシン類の量は、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDDの毒性を1として、他の異性体の毒性の強さを換算した毒性等価係数 (TEF: Toxic Equivalency Factor) を用いて、毒性等量 (TEQ: Toxic Equivalency Quantity) として算出される。

(ち)

### 地球温暖化

二酸化炭素などの温室効果ガスの大気中への蓄積が主原因となって地球全体の気温が上昇すること。地球温暖化が進行すると、平均海面水位の上昇、異常気象の増加、生物種の減少、感染症の拡大など、人や環境への様々なリスクが増大することが予測されている。

(て)

### 低公害車

既存の燃料（ガソリン・軽油）を使用する車と比較して、排出ガスがないか又はその量が相当程度少ない自動車を指し、燃料電池自動車や天然ガス自動車、ハイブリッド自動車、電気自動車などがある。

### 低騒音舗装

空隙率の高い多孔質なアスファルト混合物を表層に用いた舗装。タイヤと路面間で発生する騒音を中心に、自動車騒音を3～4デシベル低減させる効果がある。また、空隙を通した排水によって路面に雨水が溜まらないため、走行時の hidroplan 現象や水飛沫によるスモーキングを防止する効果もある。

(な)

### 鉛 (Pb)

方鉛鉱などとして産する青白色の軟らかい固体金属で、鉛板・鉛管として用い、蓄電池の電極、放射線遮蔽板などに用いる。まためっきやはんだなどの材料に用いる。

かつては、印刷業、蓄電池製造業、鉛鉱山などで見られたが、過剰に摂取すると臓器不全などの疾患を引き起こす。

(に)

### 二酸化窒素 (NO<sub>2</sub>)

空気中や燃料中の窒素分の燃焼などにより発生した一酸化窒素が、大気中の酸素と反応して生成される。高濃度で呼吸器に悪影響を与えるほか、酸性雨や光化学スモッグの原因となっている。主な発生源は、自動車、工場の各種燃焼施設、ビルや家庭の暖房機器など広範囲にわたる。

(ね)

### 燃料電池 (FC)

水素と酸素を反応(水の電気分解の逆の反応)させて電気エネルギーを取り出す装置であり、水以外のものを排出せず、クリーンなシステムである。

(は)

### バイオマスエネルギー

飼料作物、樹木、家畜の糞、食品廃棄物、下水汚泥など生物に由来する有機物で、エネルギーとして利用できるものをいう。再生可能な資源であり、地球温暖化対策として注目されている。古くから使われている薪や炭のほか、家畜の糞尿から製造したメタンガスや、サトウキビから製造したエタノールなどがある。

バイオマスは、バイオ(生物)とマス(量)を合わせた用語。

(ひ)

### ヒートアイランド現象

経済社会活動や人口の都市域への過度の集中により、冷暖房などによる人工排熱の増加や、水面・緑地の減少、道路舗装・建築物の増加など地表面被覆の改変が進み、都市部における熱収支が変化し、都市に熱がたまり気温が郊外に比べて高くなる現象をいう。

### ビオトープ

野生生物の生息空間を意味するドイツ語で、いきものの繁殖地やねぐらだけでなく、隠れ場や移動経路も含んだ一定の空間的広がりをもった概念。都市化の進展とともに失われつつある身近な自然を都市の中に確保し、創造していくことがまちづくりの新しい課題になっている。

### 微小粒子状物質 (PM<sub>2.5</sub>)

浮遊粒子状物質 (SPM) \*のうち、粒径が 2.5 μm 以下のものをいう。

微小なため肺や気管等の深部に沈着して高濃度で呼吸器に悪影響を及ぼすおそれがある。

※「浮遊粒子状物質 (SPM)」を参照

### ひ素 (As)

金属光沢があり、灰色で、鶏冠石、石黄、硫砒鉄鉱などに硫化物として含有されている非金属元素。砒素中毒になると全身発疹、高熱、食欲不振等の症状を呈す。

(ふ)

### ふっ素 (F)

蛍石や氷晶石、りん灰石などの鉱石に化合物として含まれ、自然界に広く存在する。飲用水としての過剰な摂取による斑状歯の発生が知られているが、適量の使用によっては、虫歯予防にもなるとされている。

工業用としては、ガラス加工や電子工業などで使用されるほか、ふっ素樹脂などにも用いられる。

### 浮遊粒子状物質 (SPM)

大気中に浮遊する粒径 10 μm (1 μm は 1000 分の 1 mm) 以下の粒子状物質。

微小なため大気中に長時間滞留し、肺や気管等に沈着して高濃度で呼吸器に悪影響を及ぼすおそれがある。発生源から直接大気中に放出される一次粒子と、ガス状物質が大気中で粒子状物質に変化する二次生成粒子とに分類される。

特に小さい(粒径 2.5 μm 以下) 粒子を PM<sub>2.5</sub>\* という。

※「微小粒子状物質 (PM<sub>2.5</sub>)」を参照

### フロン

正式名称をフルオロカーボン(炭素とフッ素の化合物)と言う。そのうち、CFC(クロロフルオロカーボン)とHCFC(ハイドロクロロフルオロカーボン)はオゾン層破壊物質である。これらの物質は、化学的に安定で、無毒性・不燃性であることから、洗浄剤、冷媒、発泡剤等に広く使用されていたが、CFCは1995年末で生産が全廃され、HCFCは2004年に降生産量を削減し、2020年までには全廃されることとなっている。

HFC(ハイドロフルオロカーボン)はオゾン層を破壊しないため、一般的に代替フロンと呼ばれて使用されているが、PFC(パーフルオロカーボン)とともに、地球温暖化の原因物質であり、京都議定書での削減対象ガスに指定されている。

(ほ)

### ほう素 (B)

主としてほう砂や灰硼石などの鉱石に化合物として、自然界に広く存在する。

工業用としては、ガラス原料やほうろう、陶磁器のうわ薬として使用されるほか、ほう酸として医薬品、めっき添加浴剤、防腐剤としての用途がある。

農産物に必須の元素であるが、高濃度の摂取により、嘔吐、腹痛、下痢をもたらす。

### ポリ塩化ビフェニル (PCB)

PCBは、不燃性で絶縁性が高く化学的に非常に安定であるなど有用な物質として絶縁油、熱媒体、ノーカーボン紙、インク等の用途があった。しかし、カネミ油症事件の原因物質で、新しい環境汚染物質として注目され大きな社会問題となったため、昭和47年に製造中止となっている。

## (ま)

### マニフェスト制度

廃棄物処理法においては、不法投棄等の不適正処理を防止し、排出事業者責任に基づく適正な処理を確保するため、産業廃棄物を排出する事業者が、廃棄物の種類・数量や運搬業者名・処分業者名等を記載した管理票（マニフェスト）を交付し、廃棄物の処理の流れを自ら把握・管理することが義務づけられている。

家電リサイクル大阪方式・家電リサイクル法や自動車リサイクル法、土壌汚染対策法においても別途同様の制度がある。

## (め)

### 面的評価

騒音に係る環境基準の改正（平成 11 年4月施行）に伴い導入された、道路に面する地域における騒音の評価方法。個別住居等ごとに騒音予測を行い、沿道における環境基準を達成した住居等の戸数とその割合により評価する。

## (も)

### 藻場・干潟

藻場とは大型水生植物が群落状に生育する場所の総称をいう。また、干潟は海と陸の境にあって、満潮時に水没し、干潮時には干出する砂泥の堆積した平坦な場所。酸素と太陽光と栄養分が豊富であるため、多様な生物が生息するとともに、海水浄化に重要な役割を担っている。

## アルファベット略語

### APEC環境技術交流バーチャルセンター

#### (APEC-VC)

APEC加盟国・地域が、インターネット上に環境技術情報を提供し、交流するウェブサイトで、1995年のAPEC大阪会議において採択された共同プロジェクトの一つ。

日本では、翌1996年にAPEC環境技術交流促進事業運営協議会を設立、1997年にAPEC-VCを開設した。2005年、大阪産業大学内のNPO「オーエスユーアジア環境技術および先端技術交流支援センター」が同協議会の運営を引き継ぎ、現在に至る。

2005年7月現在、12カ国・地域がそれぞれAPEC-VCを開設しており、独自の環境技術情報サイトの構築とともに、APEC域内の環境技術情報をネットワーク化している。

### BOD (Biochemical Oxygen Demand)

「生物化学的酸素要求量」を参照。

### COD (Chemical Oxygen Demand)

「化学的酸素要求量」を参照。

### FCV (Fuel Cell Vehicle) (燃料電池車)

燃料電池（FC）で発電しながらモーターを回して走行する自動車をいう。

燃料として水素を利用するので、通常の自動車のように排ガスやCO<sub>2</sub>を出すこともなく、出るものは水だけで、騒音も小さいことから、究極のエコカーといわれている。

### LED (Light Emitting Diode)

#### (発光ダイオード)

電流を流すと発光する半導体の光源であり、近年の青色LEDの開発・製品化により、現在では様々な色を再現する事ができるようになった。

また、白熱灯の約1/8の消費電力であり、かつ長寿命であるため、省エネルギーや廃棄物の観点からも、環境負荷の少ない光源である。

### LEV-7 (Low Emission Vehicle -7)

#### (低排出ガス車)

一般に市販されているガソリン車、ディーゼル車及びLPG車の中で、「京阪神七府県市自動車排出ガス対策協議会」が、国の定める規制値より厳しいNO<sub>x</sub>やPM等の排出ガス指定基準に適合すると認めた自動車をいう。

### PCB (Polychlorinated Biphenyls)

「ポリ塩化ビフェニル」を参照。

### PM2.5 (Particulate Matter 2.5)

「微小粒子状物質」を参照。

### SPM (Suspended Particulate Matter)

「浮遊粒子状物質」を参照。

### VOC (Volatile Organic Compounds)

「揮発性有機化合物」を参照。

